

二人の人物がいた。ひとは「卵」という名前で、もうひとりの名前は「小石」だった。

或る日、旅の途中で、一本の道の前にたどり着いた。卵氏は、小石氏に言った。

「お先にどうぞ」。

小石氏は、卵氏に言った。

「いやいや、卵さんの方こそ、お先に」。

卵氏が言った。

「いや君の方がお先にどうぞ、だって君は小さいし軽いから。お先にどうぞ、その後から僕が行くよ」。

卵氏が先に進んで、小石氏がその上に乗って、卵を粉々にしてしまった。

これが私のお話。お話は山羊のようでも牛のようでもない。